

家庭の役割	学校教育及び子育て支援関係者の役割
・食卓において、食事の楽しさを伝える ・食事の際のあいさつやマナーを身につける ・3食の食事で生活リズムの基礎をつくる ・食欲を感じて食べる習慣をつける など	・給食において、食事の楽しさやマナー、食文化を伝え、地場産物を活用する ・給食だより等による、保護者への啓発 ・教育の一環としての食育の啓発 など
地域、食育活動団体及び個人、 農林水産業関係者の役割	行政の役割
・地域の集まりと地域で活動する団体や個人が連携し、多岐にわたる食育を推進する ・地域の集まりや住民同士の声かけにより、地域ぐるみで食育に取り組む など	・総合的な情報の集約・発信及びその啓発 ・教育、健康、農業、漁業、福祉等各分野の連携を強化し、市全体での推進体制づくり ・効果的な食育推進のための計画づくり など

計画の中間評価

目標達成（◎）が 5 項目、目標値に達していないが改善がみられる（○）が 10 項目、改善がみられない（×）が 18 項目となっています。

シンボルプロジェクト番号	No.	評価指標	対象者	策定時 (平成30年度)	中間評価 (令和 5 年度)	目標値 (令和10年度)	評価
I	1	朝食を毎日食べる人の割合	子ども(6～17 歳)	91%	90%	100%	×
			大人(18 歳～)	83%	79%	88%以上	×
2	2	食事バランスや規則正しい食事に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	85%	86%	90%以上	○
			大人(18 歳～)	81%	82%	86%以上	○
II	3	野菜を毎食食べる人の割合	子ども(6～17 歳)	42%	40%	52%以上	×
			大人(18 歳～)	35%	38%	40%以上	○
	4	家庭の食事でいつも薄味を意識している人の割合	6～14 歳の子の保護者	25%	21%	30%以上	×
			大人(18 歳～)	33%	31%	38%以上	×
	5	低栄養傾向(BMI20 以下)の高齢者の割合	高齢者(65 歳～)	16%	16%	11%以下	×
	6	食べ物の安全性に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	91%	89%	96%以上	×
			大人(18 歳～)	88%	89%	93%以上	○
III	7	食べ物を育てる、食べ物をとること(収穫、山菜採り、魚釣りなど)に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	74%	70%	84%以上	×
			大人(18 歳～)	63%	63%	73%以上	×
8	8	食べ物の命や作ってくれた人への感謝に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	89%	91%	94%以上	○
			大人(18 歳～)	84%	87%	89%以上	○
IV	9	食文化(郷土料理や行事食)に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	69%	68%	79%以上	×
			大人(18 歳～)	59%	62%	69%以上	○
V	10	地元食材の積極的な利用に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	65%	67%	75%以上	○
			大人(18 歳～)	68%	68%	78%以上	×
VI	11	食べ残しや食品廃棄の問題に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	85%	87%	90%以上	○
			大人(18 歳～)	86%	89%	91%以上	○
VII	12	食育体験コーナーでの普及啓発対象者数		1,453 名	843 名	1,600 名以上	×
	13	食育推進会議の実施		実施	実施	継続実施	◎
	14	食中毒の予防(手洗い、しっかり加熱、適切な保管)に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	93%	93%	96%以上	×
			大人(18 歳～)	90%	93%	92%以上	◎
	15	一人で食事をする子ども(6～17 歳)の割合	朝食	17%	19%	14%以下	×
			夕食	3%	3%	0%	×
	16	料理のしかたに関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	88%	86%	90%以上	×
			大人(18 歳～)	79%	82%	81%以上	◎
	17	料理や食事を楽しむことに関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	92%	91%	94%以上	×
			大人(18 歳～)	86%	88%	88%以上	◎
	18	食事マナーや作法に関心がある人の割合	子ども(6～17 歳)	91%	90%	93%以上	×
			大人(18 歳～)	77%	81%	79%以上	◎
評価指標以外の 気になる食行動	19	就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ある人の割合	大人(18 歳～)		22%		
	20	夕食後に間食や甘い飲み物を週に 3 日以上とる人の割合	子ども(6～17 歳)		50%		
			大人(18 歳～)		29%		

第三次 宇佐市食育推進計画 中間評価 概要版

本市では、食を通じた健やかな体と豊かな心づくり、環境と調和した地場産物づくりを目指して、令和 2 年 3 月に「第三次宇佐市食育推進計画」を策定し、様々な食育推進関係者が連携しながら、食育の推進に取り組んできました。

本年は、10 年計画の中間年度を迎えることから、目標の達成度やこれまでの取り組みを評価し、食をめぐる課題を踏まえ、今後の計画推進に役立てるための中間評価を実施しました。

◇計画の趣旨と背景

「食」は生きるうえでの基本であって、心身の健康を保ち、日々の生活を充実させるために欠かすことができません。しかし、現在は社会環境がめまぐるしく変化し、人々の価値観や食生活は多様化し、日々の生活に追われることで、「食」の大切さは忘れられがちです。

そこで、食育推進関係者が一体となって食育を推進し、市民一人ひとりが「食」への意識を高め、様々な経験、体験を通じて食に関する知識と食を選択する力を身につけ、健全な食生活を送れるよう、「第三次宇佐市食育推進計画」を策定します。

◇計画の位置づけ

食育基本法に規定された市町村食育推進計画として位置づけ、関係各課の諸計画・施策等との調和を図り、第二次宇佐市総合計画後期基本計画の主要施策とします。

◇計画の期間

令和2年度から令和 11 年度までの 10 年間とし、令和 6 年度に中間評価を行いました。

◇食育とは(食育基本法)

- ・生きるうえでの基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるもの
- ・様々な「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる人間を育てること

調査内容

(1)調査期間令和5年 11 月 24 日～令和5年 12 月 15 日

(2)回収状況

ライフステージ	対象者	回収数/発送数(回収率)
乳児期	乳児の保護者	105/ 168(62.5%)
幼児期	1歳児・3歳児の保護者	215/ 387(55.6%)
	6歳児の保護者	146/ 300(48.7%)
学童・思春期	11 歳児の保護者	196/ 374(52.4%)
	14 歳児の保護者	171/ 391(43.7%)
	17 歳	107/364(29.4%)
青年期	18～39 歳	304/1,686(18.0%)
壮年期	40～64 歳	364/1,004(36.3%)
高齢期	65 歳以上	413/796(51.9%)

ライフステージ別の主な気になる食行動(令和5年度時点)

幼児期 (1,3,6 歳)	学童・思春期 (11,14,17 歳)	青年期 (18～39 歳)	壮年期 (40～64 歳)	高齢期 (65 歳以上)
・野菜摂取頻度の低下	・朝食の孤食 ・夕食後の間食 (お菓子、アイス)	・朝食欠食 ・薄味意識の低下 ・就寝前 2 時間以内の 夕食 ・夕食後の間食(お菓子)	・朝食欠食 ・薄味意識の低下 ・就寝前 2 時間以内の 夕食 ・夕食後の間食(お菓子)	・低栄養 ・薄味意識の低下

第三次宇佐市食育推進計画 中間評価 概要版

【発行】宇佐市 福祉保健部 健康課 健康増進係

〒879-0492 大分県宇佐市大字上田 1030-1 電話 0978-27-8137

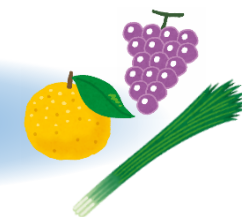
市民が自然や地域とふれあいながら食の大切さを知ることにより、生きる力を身につけ、健やかな体と豊かな心を育みます。
また、ふるさとに親しみをもちながら地産地消を推進し、環境と調和した地場産物づくりを目指します。

3つの方向性

健やかな体づくり



豊かな心づくり

環境と調和した
地場産物づくり

6つの目標

規則正しく、
バランスよく食べる安全安心な
食べものを選ぶ料理や食事を楽しみ、
食べものに感謝する食文化を理解し、
伝承する地場産物を活用して、
食産業・食観光を
活性化する自然環境に配慮し、
美しい郷土を守る7つのシンボル
プロジェクト具体的
な取
組み家
庭関係者
子育て
支援地域・
食育
活動
団体Ⅰ.「毎日食べよう！朝ごはん」
プロジェクト

- ・家族で朝食の大切さを認識しあう
- ・食べる習慣がなければ用意しやすく食べやすいものを食べることから始める
- ・朝食等の生活習慣チェック
- ・朝食の大切さについての学習
- ・手軽に作れる朝食料理教室の開催
- ・子どもたちの登校時に朝食についての声かけ

Ⅱ.「そろえよう！
安全安心・バランス食」
プロジェクト

- ・食事にご飯、野菜、たんぱく質がそろうように買い物のときから心がける
- ・味つけは濃くなり過ぎないように、素材の味を楽しむ習慣をつける
- ・三色の食べものを学習する
- ・バランスのよい給食をしっかり食べてもらう
- ・地域の集まりでのバランス食の提供
- ・しっかり食べているかの声かけ合い

Ⅲ.「やってみよう！食育体験」
プロジェクト

- ・野菜の栽培、魚釣り、調理の様々な体験で食べものの命にふれる
- ・地域や食育関係団体と連携して、給食で提供される食材の収穫や学習
- ・食べものがつくられる過程を伝える
- ・学校等と連携して、魚をさばく等の命を実感できる実習
- ・食べものをつくる人との交流

Ⅳ.「伝えよう！ふるさとの味」
プロジェクト

- ・季節ごとの行事を大切に、日々の生活に取り入れる
- ・上の世代から伝えられた郷土料理や家庭の味を食卓に並べ、次の世代に伝える
- ・季節の行事食や郷土料理の学習、調理実習
- ・給食での提供
- ・学校等と連携した郷土料理教室
- ・地域の祭り等における郷土料理の振舞い

Ⅴ.「すすめよう！地産地消」
プロジェクト

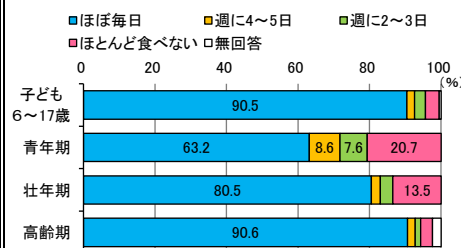
- ・食べものの生産地や生産者を意識し、食卓で話題にする
- ・各種イベントで、宇佐でとれる食べものを見て、味わう
- ・地場産物を給食で活用する
- ・給食だよりや実際に食べるときには食材の紹介を行う
- ・食育関係団体を招き、地場産物を使った料理教室や試食会を行い、紹介と販売を行う

Ⅵ.「守ろう！美しい郷土」
プロジェクト

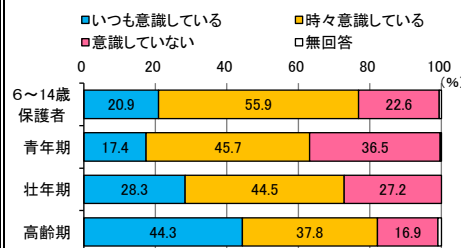
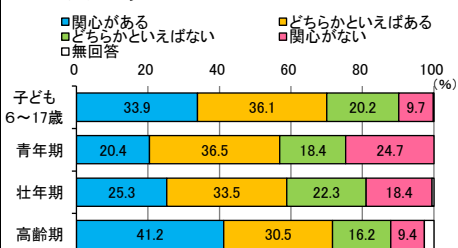
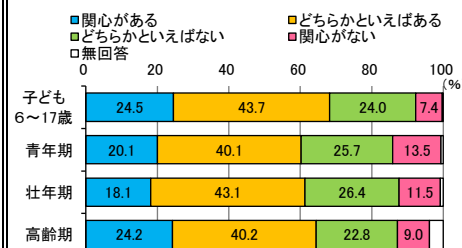
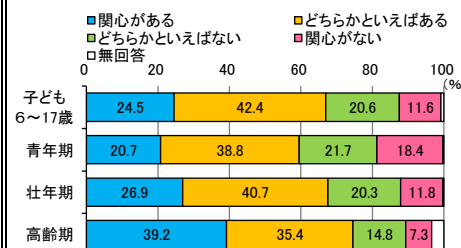
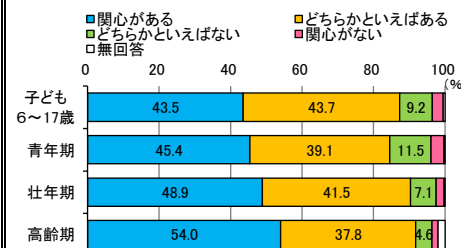
- ・買い物や料理をつくるときに残らないようにする
- ・生ごみや廃油はそのまま捨てずに活用する
- ・できるだけ子どもたちが給食を残さないように、宇佐の自然環境やごみの問題を学習する
- ・生ごみ減量の工夫を呼びかける
- ・食材の廃棄部分を活用したエコ食料理の教室

アンケート調査
結果からみえた
各プロジェクト
の気になる項目

【問】 朝食を食べていますか



【問】 家庭の食事は薄味を意識していますか

【問】 食べ物を育てる、食べ物をとること
(収穫、山菜採り、魚釣りなど)に関心
がありますか【問】 食文化(郷土料理や行事食)に関心
がありますか【問】 地元食材の積極的な利用に関心
がありますか【問】 食べ残しや食品廃棄の問題に関心
がありますか令和11年度
に向けた
ステップアップ

- ・朝食の大切さを知り、毎日朝食をとる習慣を身につける
- ・主食・主菜・副菜をそろえた食事の大切さを知り、普段の食事で心がける
- ・毎日3食時間を決めて食べる習慣を身につける

- ・1日の野菜摂取目標量を知り、毎食食べる習慣を身につける
- ・1日の食塩摂取目標量を知り、塩分のコントロールができるようになる
- ・適正体重を知り、維持に努める
- ・食品の表示や安全性に関心を持ち、正しく理解・選択できるようになる

- ・農業や漁業の体験を通して、食べものがつくられる過程や食べものの命に関心を持つ
- ・食べ物の命や作ってもらった人への感謝の心を持ち、食事のあいさつをする
- ・家庭や学校、地域の料理教室等で、調理体験をし、料理や食事を楽しむ

- ・郷土料理や行事食を体験できる場(家庭の食事、給食、地域の料理教室やイベント等)を通して、親しみや関心を持ち、次世代へ伝える

- ・地域の料理教室やイベント、給食等で地場産物や特産品の魅力を知り、親しみや関心を持つ
- ・地場産物を積極的に利用する

- ・「使いきり・食べきり・水きり」の3きり運動で生ごみを減らし、食べものがつくられる環境を大切にする

地域一体となって
進める取り組みⅦ.「広げよう！食育の環」
プロジェクト

- ・家庭、学校、保育所、こども園等、地域、食育関係団体、行政が連携しながら取り組みを行う
- ・行政においては、食育に関わる様々な人が連携を深められる場をつくり、食育を行う人材の養成や情報提供等による活動支援を行い、共食の場を活用した取り組みや、多くの方が訪れる場で食育の普及啓発を行う